

イノコヅチ (ヒカゲイノコヅチ)

名前の意味：いのこはイノシシのこと。つちは膝^{ひざ}のことで、茎^{くき}の節^{ふし}が
ふくれているのをイノシシの膝^{ひざ}にたとえた。

分類：双子葉類、ヒユ科、イノコヅチ属

(ヒユ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ケイトウ)

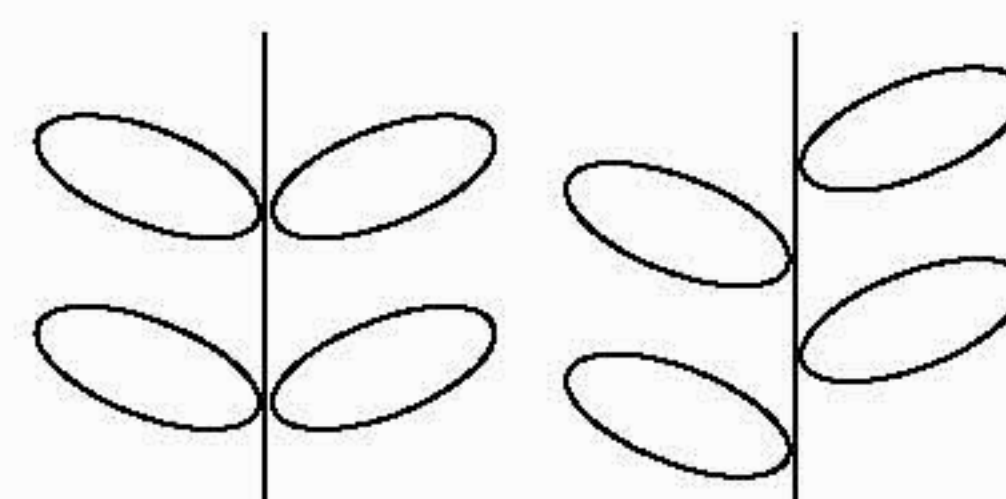
好きな場所：日陰の道ばた、林の縁

分布：本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：対生^{たいせい}する葉、赤くてふくれた茎^{くき}の節^{ふし}、

虫のような形をした服につく実。



たいせい
対生

ごせい
互生

種子の運ばれかた：動物の毛皮に付いて運ばれる

花弁の数：離弁^{りべん}、5裂^{れつ}

花の時期：8－9月

食べ方：食べない

見分け方：ヒナタイノコヅチは、日向^{ひなた}に生えて、緑色が明るく、花
の集まる茎^{くき}に毛が多い。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)